

(5) Eli 連邦教育省職業・社会教育局長との協議々事録(要旨)

1981年4月7日

連邦教育省 (Federal Technical College, Yaba)

Mr. Eli : 連邦教育省職業社会教育局長

Mrs. Lakuna :

Mr. Balango :

専門家チーム 5名

日本大使館 : 松田一等書記官

Eli : よくいらっした。さて、到着されて既にいくつかの施設を見学されたと思うが。

チーム : Yaba の Technical College と NTTC 及び Kaduna では Technical College を訪問した。
本チームの訪問目的は、本協力プロポーザルの協議と日本人専門家の派遣に関する生活環境の調査である。調査結果は、帰国後我が国政府に報告する予定である。

Eli : 主旨は了解した。プロポーザル、質問状を受けたが、チームの帰国迄に回答するのは困難である。決定する場合には、政府のいろいろな省庁がからんでいる。私の方でも回答できるよう努力したい。この問題は、現在私の手元にはない。ただ1つ確かなのは、このプログラムの目的につき既に説明し、その実施を要請しているが、どこにこのセンターが設置されるか私は言えない。

チーム : 本件プロジェクトは、我が国とナイジェリアとの協力で行う初めてのケースで、今後の両国の親善を深め、協力を進める上で重要である。できる限り話し合いの機会を持っていただきたい。

Eli : 他に1つ JICA プロジェクトがある。これは新首都アブジャにおける Institute of Technology の設立について日本に協力を願うものである。私が政府の小委員会の委員長をしておりプロポーザルを作成した。この件と皆様の件とがどうも混同しているようだ。

チーム : 我々のプロジェクトとその Institute of Technology とは全く関係のないものである。
我々は、職訓センター設立に関し、技術的に協議をしに来たのである。

Eli : 了解した。

チーム : 今迄一週間、教育施設及び企業等を見学したのでその結果を報告するとともに、本件センターの基本的方針を述べ、それにつき協議をしたい。

我々は既に3つの Technical College を見学した。これらについては共通して以下のことが言える。

- 設備の管理が良くない。
- 教材が不足している。
- 計画性が不足している（Job sheet がない）
- カドナのCollegeには外人教師がおり、比較的整備されている。

カドナ精油所を設立した日本の企業の人と話し合いをもったが、カドナの精油所の建設に当っては、目標、計画、実施、検討という組合せが十分であった。

実施には、日本からの材料の調達、技術者の確保が計画的に行われた。この計画の中には、約1,000人のナイジェリア人の訓練を実施した。この訓練についても目標、計画、実施、検討がよく計画され実施されていた。

ナイジェリア人応募者には、いろいろな資格を有する者がいたが、現場でその技能を活かせるレベルの者は少なかった。ナイジェリア人技術者はTechnical Collegeを卒業している者が多いが、技術は全般に低い。

当該企業で実施した訓練の結果では、少数ではあるが日本人より優れた技術者が育った。これは、計画性をもって実施し、その結果を検討しナイジェリア人に合った訓練を実施したためである。

本センター設置については、このような考え方で訓練を行いたい。

本計画では、指導員になる人を養成しようとするものである。そのためには、巾広く教えるのではなく、必要なものを段階的に確実に目標に向って積上げていきたい。このような訓練を実施するためには、貴国政府の協力が必要である。

カウンターパートを十分に配置してほしい。その資格についてナイジェリア側はどのように考えているのか。

E11：教育省では、既に他の国々と二国間協定を結んだことがある。参考になるかどうか分らないが、ILOとの協定があった。この場合、カウンターパート研修は協定締結に当つての重要事項であった。我が国が提供するカウンターパートは技術的にもアカデミックな面でも十分資格を有する者、即ち十分な技術があり、指導力があり、現場での経験のある者をカウンターパートとするので問題はない。

チーム：各分野3名位と考えている。定着のため何かボンドを考えられないか。

E11：通常、海外研修から帰国後は少なくとも2年のボンドを付けているが、それ以上は引き止められない。

チーム：ボンドの期間は、研修期間の長さに関係するのか。我が国のセンター協力の場合、カウンターパートの我が国での研修は、通常9ヶ月位だが、どうか。

E11：その場合でも少なくとも、2年間のボンドである。

チーム：本計画に対するナイジェリア側の進行状況を知りたい。

Eli : 第4次国家開発計画(1981-1985)で、6つのCollegeを新設する計画があり、その1校は本件協力に提供する予定であるが、場所、予算措置等未だ具体的には何も決定していない。場所の決定は多に政治的であり、政府が決定するまで分らない。しかし、私の予測では後1~2週間で決定されるであろう。

チーム : カドナに設置される見通しはあるのか。

Eli : 分らない。(I don't know)私にできるのはプロポーザルだけである。前回来た調査団はカドナを提案したが、大臣はこれを拒否した。調査団は、我が国政府に対し、場所を決定する立場にはない。カドナ、カドナと言うのは、当該企業の人々に会うためなのか。

チーム : そうではない。前回調査団が4州を訪問して、カドナが本センター設置に最適地であったためである。

Eli : 当時、ある州のState Technical Collegeのレベルアップを計画していた。協力の可能性があった。しかし上に報告したら拒否された。

チーム : 前回の決定に基づき我が政府はカドナでの環境の調査のためこのチームを派遣したものである。

Eli : カドナは白紙にしたい。ナイジェリア政府が決定するのである。

チーム : それはナイジェリア政府の都合のみである。我々の調査結果報告では、このプロジェクトの推進は難しいであろう。

前回話し合った結果カドナが決定しており、我が市ではカドナ以外ではOKができるかわからない。

Eli : プロポーザルについては、何ら異議はない。質問書の項目は、調査団が調査して得るべきものが多い。これの中には、既に回答しているものもある。

チーム : 調査して分っているものについては、回答していただかなくともよいが、未だ分っていないものについては、本質問書を改訂して提出する。これらがはっきりしないとセンター設立が遅れるばかりである。我が方の方針も回答を待つて決定される。

Eli : それらは後程回答したい。ある事項は、他省庁とも関係している。ただ、これらの事項を検討するには、ドキュメントが不十分である。重要なことは先ず、場所の決定である。それから建設が何時から開始されるかである。建設は本年度中には無理であろう。

チーム : 我々の滞在中に回答できるものは、回答願いたい。不可能なものは、できる限り速やかに大使館を通じて回答願いたい。我が国の方針は、調査結果、回答等を考慮して決定されるので、早く提出いただきたい。

Eli : 滞在中に回答できるものはする。しかし、大臣に上げなければならないので、時間がかかるであろう。

チーム : 明日改訂した質問書を提出する。

Eli : 皆様の視察結果を文書で提出願いたい。私の仕事にとって非常に有益である。本件プロジェクトの説得にも役立つ。

チーム : 滞在中に可能であれば、提出するが、不可能な場合は、大使館を通じて提出したい。本件協力に関するお互いのインプットを確認したい。(JICA 作成の文書を提出し、説明)

Eli : 承知している。

チーム : 4 次計画に 6 校設置されると聞いたが、どのような学校か。

Eli : 皆様が提案している advanceel course 及び ordinary course を実施する Technical College である。

チーム : 我々の協力は Advanceel course のみである。

チーム : 本チームは前述のとおり技術的な事項を詰めに来た。チームの滞在中に技術的にこのプロポーザルを詳細に協議できるか。

Eli : 目的、コース、定員等か。

チーム : そうである。本チームの目的の 1 つはプロポーザルの技術的な詰めである。

Eli : 私は一応目を通した。プロポーザルは素晴らしい。

チーム : ビルディングのレイアウトも必要であろう。

Eli : ビルディングの件については協議できない。場所も決まっていない。

チーム : 新しい学校を建設するのであろう。

Eli : その通りである。とにかく 6 校の Technical College が我が国内で建設されるということのみである。

チーム : 日本協力案では「ナ」国の実情が詳細に分らなかったもので、とりあえず、City & Guilds の Advanced course のシラバスに基づいた訓練を考えているが、我々独自のものを持込むことはできるのか。

Eli : 日本が協力するときには、一般的に我々は日本独自のプログラムを期待する。City & Guilds は英国の制度であって、非常に狭すぎる。本制度に替わるものがないので、この制度を使用しているが、現在、国家技術教育委員会は、この制度を再検討中であり、近い将来ナイジェリア国では、この City & Guilds という言葉を聞かなくなるだろう。我々はこの制度をとり止めたいと考えている。日本独自のプログラムを歓迎する。

日本 : 本チームは「ナ」国の要請どおり、協力案を持参し、技術的に協議しに来たのにもかかわらず、「ナ」国側では今迄何ら進展が見られず、また、本チームと技術的な協議さえできないのは誠に遺憾である。

Eli : 明日、次官、大臣に上げる。本チームも大臣に会っていただきたい。

JICA

5
2
6
1.11